TOMODACHI ビヨンドトゥモロー
グローバル・リーダーシップ・アカデミー2014
報告書

2014年3月7日～3月9日

東北被災地の若者、世界の防災へ提言

- 開催場所：メリルリンチ日本証券　東京オフィス（東京・中央区）
  国立オリンピック記念青少年総合センター（東京・渋谷区）
  東京アメリカンクラブ（東京・港区）
- 主催：一般財団法人　教育支援グローバル基金
- 協力：バンクオブアメリカ・メリルリンチ

「ビヨンドトゥモロー」は、東日本大震災により被災した若者の
リーダーシップ教育支援事業です

TOMODACHI ビヨンドトゥモロー
グローバル・リーダーシップ・アカデミー2014　概要

主催	一般財団法人　教育支援グローバル基金
協力	バンクオブアメリカ・メリルリンチ
日時	2014年3月7日（金）～9日（日）
趣旨	一般財団法人教育支援グローバル基金は、2014年3月に、公益財団法人米日カウンシル-ジャパン・米国大使館を中心とする官民パートナーシップ「TOMODACHIイニシアチブ」の一環として、TOMODACHI　ビヨンドトゥモローグローバル・リーダーシップ・アカデミー2014を開催致しました。これまでTOMODACHIイニシアチブの下に開催された各プログラムで渡米した高校生・大学生のうち、選考によって選ばれた72名が東京に集結しました。3日間の対話・ディスカッション形式のプログラムを通して、世界の自然災害（フィリピン台風、ハイチ大地震、スマトラ島沖地震／インド洋津波）の事例と自らの震災での経験や自然災害分野の専門家からのインプットを基に提言を取りまとめました。2015年に国連防災世界会議が仙台で開催されることを踏まえ、東日本大震災を経験した自分たちだからこそ世界に伝えたい教訓を議論しました。各界のリーダーたちが出席する閉会式で参加学生は提言を発表し、国連防災世界会議を担当する外務省地球規模課題審議官に提言として届けました。

TOMODACHIイニシアチブとは

TOMODACHI　イニシアチブとは、東日本大震災後の日本の復興支援から生まれ、教育・文化交流、起業支援、指導者育成といったプログラムを通して、日米の次世代のリーダーに投資する官民パートナーシップです。日米関係の強化に深く関わり、互いの文化や国を理解し、より協調的で繁栄した安全な世界への貢献と、そうした世界での成功に必要な、世界中で通用する技能と国際的な視点を備えた日米の若いリーダーである「TOMODACHI 世代」の育成を目指しています。
（ウエブサイト：www.usjapantomodachi.org/ja/）

メッセージ

キャロライン・B・ケネディ

駐日米国大使

“皆さんがTOMODACHIプログラムで経験したことが、どうすれば皆さんの人生の役に立つのか考えて欲しいと思っています。”

参加者の皆様へ

アメリカ大使館とTOMODACHIチームを代表し、皆さんを「TOMODACHIビヨンドトゥモローグローバル・リーダーシップ・アカデミー2014」にお迎え致します。

米国と日本は強く永続的なパートナーシップを結んでいます。この関係に重要な一つは人と人との繋がりです。2011年の東日本大震災後、私たちは官民パートナーシップを結びTOMODACHIイニシアチブを設立、被災した地域の若者と米国を結ぶ活動を開始しました。

3年経った今現在も、私たちは皆さんと一緒に活動を続けています。今回TOMODACHIビヨンドトゥモロー グローバル・リーダーシップ・アカデミーに選ばれた皆さんにお祝いを申し上げます。

皆さんにはこれからの2日間を最大限に活用し、皆さんがTOMODACHIプログラムで経験したことが、どうすれば皆さんの人生の役に立つのか考えて欲しいと思っています。英語スキルの向上やアメリカ留学を考えるなど、皆さんが今とる行動は、皆さんの将来の進路を決める手助けをすると共に、二国間の絆をより深めます。今回のグローバル・リーダーシップ・アカデミーでの皆さんの活躍を願っています。

ありがとうございました。

目次

1. メッセージ 03
2. プログラム概要 05
   I. 参加学生紹介 07
   II. スケジュール 09
3. 参加学生の声 11
4. プログラムハイライト 13
   I. グローバル・アジェンダとは？ 13
   II. 専門家インタビュー 15
   III. リーダーとの対話 17
   IV. 閉会式／提言発表会 19
   V. 地球規模課題審議官への提言提出 21
   VI. 学生代表スピーチ 23
   VII. ラップアップ・リフレクション 25
5. 合唱 29
6. 協力団体 30
7. ビヨンドトゥモローとは 31

TOMODACHIビヨンドトゥモロー・グロー

東日本大震災から3年が経った2014年3月、第2回目となるTOMODACHI　ビヨ

東日本大震災という未曾有の自然災害を経験した、東北の学生たち。3年前の「このような思いを、もう誰にも経験してほしくない」—学生たちはそう誓い、これ

第2回目となる、グローバル・リーダーシップ・アカデミーのテーマは、世界の自課題ではなく、世界共通の課題—グローバル・アジェンダ—です。学生たちは、仲間たちと議論し、そして提言策定に臨みました。3年分の思いのこもった、

TOMODACHI　各種プログラム

- TOMODACHIサマーコカ・コーラ ホームステイ研修プログラム
- TOMODACHIサマーソフトバンク・リーダーシップ・プログラム
- TOMODACHI サマー 英語研修プログラム
- TOMODACHI 2013 春休みホームステイプログラム
- TOMODACHI サンディエゴプログラム
- セントルイス・東北　草の根　交流プログラム（トヨタ自動車、三菱商事、日立製作所）
- ダラス・仙台　ヤング　アンバサダーズ プログラム （トヨタ自動車、三菱商事、日立製作所）
- TOMODACHIサマー ビヨンドトゥモロー米国プログラム

参加高校生
—TOMODACHI世代—

東北出身で、これまでTOMODACHIイニシアチブの下に開催された各プログラムで渡米した高校生で、将来、グローバルに活躍するリーダーとなることを志す63名（書類選考により決定）

グロー

2泊3日にわたある自然災害ケーススタディきるアクション

・参加者たち解を深め、る。
・参加者たち対話を通しについて考
・異なるプロTOMODACいていく仲

バル・リーダーシップ・アカデミー

ンドトゥモロー・グローバル・リーダーシップ・アカデミーが開催されました。

あの日、自分の大切な人、家、故郷など、災害で様々なものを失いました。
まで歩んできました。

然災害。学生たちが経験した「自然災害」への取り組みは、決して東北だけの
2泊3日に渡り、自らが世界の自然災害への取り組みに貢献する意義を考え、
特別な3日間となりました。

TOMODACHI ビヨンドトゥモロー
バル・リーダーシップ・アカデミー2014

り、東北発のリーダーたちは、地球規模課題で
について議論しました。自らの経験と、世界の
から、共通点・相違点を見つけ、自分たちにで
プランを策定しました。

アカデミーの目的

が、世界をとりまく地球規模課題について理
必要とされるアクションについて議論、思考す

が、様々な領域で活躍するリーダーたちとの
て、将来自分たちが果たしたい社会的な役割
え、具体的なビジョンを描く。
グラムで米国滞在を体験した学生たちが
HI世代としてつながり、共に未来に向かって歩
間としての絆を深める。

メンター

本アカデミーの支援企業バンクオブアメリカ・メリルリンチより、総勢16名の社員の方々が、メンターとして各グループに参画して下さいました。社会でリーダーとしてご活躍されているメンターのアドバイスは、参加学生の議論だけでなく、人生にも新しい視点を与えてくれました。

大学生チームリーダー

これまでTOMODACHIイニシアチブの下で渡米し、昨年のグローバル・リーダーシップ・アカデミー2013に参加した東北出身の大学生9名。今年はリーダーとして、高校生の議論のリード・サポートを担いました。（書類選考により決定）

プログラム概要

参加学生紹介

東北出身で、これまでTOMODACHIイニシアチブの下に開催された各プログラムで渡米した学生の中から、将来、グローバルに活躍するリーダーとなることを志す72名の高校生・大学生が選出されました。米国に滞在した体験を、今後の活動に活かし、世界に活躍できる人材になるという熱意と志を持つ72名が厳しい書類選考によって選ばれ、アカデミーに参加しました。

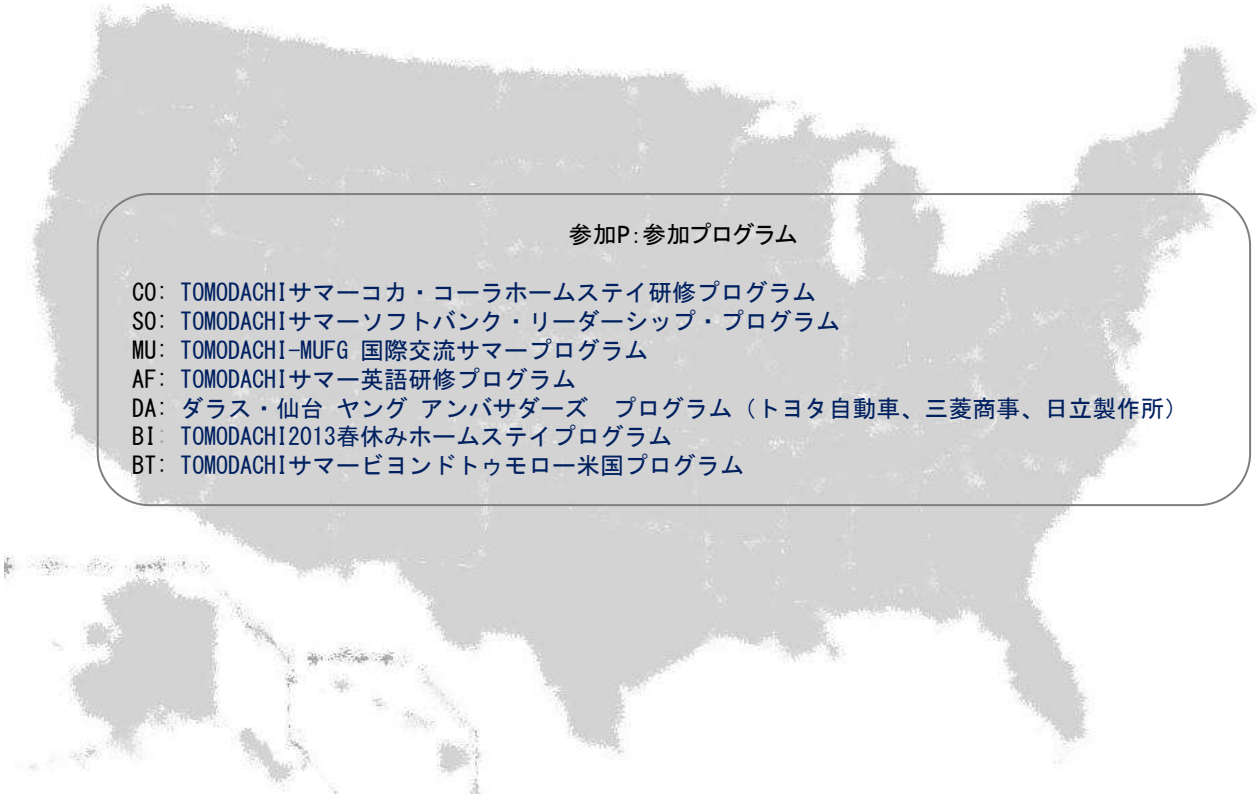
参加学生一覧(1/2)

氏名	学校	学年	参加P	氏名	学校	学年	参加P
岩手							
合野口大毅	盛岡市立高等学校	3	BI	千葉美乃里	岩手県立大船渡高等学校	2	CO
太田古都	岩手県立不来方高等学校	2	CO	浜登美海	岩手県立釜石高等学校	1	SO
菓澤詩穂	岩手県立釜石高等学校	3	CO	前川未来	岩手県立釜石高等学校	1	SO
小田島来賀	岩手高等学校	1	AF	村井旬	岩手県立盛岡第三高等学校	2	SO
櫻井那奈	岩手県立一関第一高等学校	2	BI	八重樫怜	岩手県立盛岡第一高等学校	1	CO
櫻岡碧	岩手県立大船渡高等学校	2	CO	山崎成歩	岩手県立盛岡第四高等学校	2	SO
佐々木真琴	岩手県立宮古高等学校	2	SO	山屋歩香	岩手県立福岡高等学校	2	BI
高橋朱憂	岩手県立大船渡高等学校	1	CO	遊佐紀子	岩手県立宮古高等学校	3	CO
宮城							
阿部成子	宮城県佐沼高等学校	2	MU	小松茉由	仙台白百合高等学校	2	DA
市村岳哉	石巻専修大学理工学部	1	CO	金あおい	宮城県仙台第二高等学校	2	DA
岩渕由佳	仙台白百合学園高等学校	2	DA	近藤佑太	宮城県名取北高等学校	3	SO
遠藤まりな	宮城県宮城第一高等学校	3	AF	佐藤迅	宮城県農業高等学校	3	BT
大内花	宮城県宮城第一高等学校	2	BI	澤田万尋	宮城県仙台第二高等学校	2	CO
尾形咲季	宮城県仙台第二高等学校	2	CO	渋谷駿	宮城県石巻商業高等学校	2	SO
小田島礼佳	宮城県気仙沼高等学校	3	SA	下山瑠夏	宮城県仙台二華高等学校	1	CO
小野禎典	宮城県仙台第一高等学校	2	CO	鈴木菫	仙台育英学園高等学校	1	SO
狩野百香	東北学院榴ヶ岡高等学校	2	SO	滝沢季里	宮城学院高等学校	2	AF
亀谷真美	宮城県気仙沼高等学校	2	SO	田畑祐梨	宮城県志津川高等学校	3	CO
亀谷怜央	宮城県立名取高等学校	1	SO	永田あかね	宮城県塩釜高等学校	1	CO
苅宿晴太	宮城県角田高等学校	2	CO	橋本千空	宮城県農業高等学校	2	SO
菊池翔太	東北学院大学法学部	2	BT	半田大輝	東北学院大学文学部	1	SO
木村汐里	宮城県仙台三桜高等学校	3	BI	平塚奏流	宮城県仙台東高等学校	3	CO
熊谷杏奈	宮城大学事業構想学部	2	BT	堀江美波	東北学院大学教養学部	1	SO
熊谷優太朗	仙台青陵中等教育学校	4	DA	山田はるひ	宮城県石巻高等学校	2	SO
小齋祥平	宮城県農業高等学校	2	SO	若生瑞希	宮城県仙台東高等学校	3	SO
小林梨乃	常盤木学園高等学校	2	DA				
福島							
上石美咲	日本大学東北高等学校	2	SO	高橋実希	福島県立福島高等学校	2	CO
有本温子	St. Timothy's School（米国）	Jr.	BT	蜷川遼	福島県立郡山高等学校	2	SO
宇野飛来	福島県立磐城高等学校	2	BI	三浦朝香	福島県立橘高等学校	3	CO
大塚夏生	福島県立湯本高等学校	3	CO	諸井愛	福島県立磐城桜が丘高等学校	2	CO
岡颯紀	福島県立磐城高等学校	3	BI	門馬千紗	福島県立相馬高等高校	2	SO
國分寿樹	福島県立安積高等学校	2	CO	渡邊大亮	福島県立福島高等学校	2	CO
鈴木奈都美	福島県立磐城高等学校	2	CO				

参加学生一覧(2/2)

氏名	学校	学年	参加P	氏名	学校	学年	参加P
茨城							
正田真悟	茨城県立土浦第一高等学校	2	AF				
埼玉※							
堀内義広	埼玉県立狭山清陵高等学校	3	CO				
東京※							
木村拓哉	東京大学教養学部	1	BT	高橋亜弓	上智大学外国語学部	1	BT
小山璃子	桐朋女子高等学校	2	CO	梁川菜美	昭和女子大学人間社会学部	1	CO
神奈川県※							
鎌田千里	鎌倉女子大学家政学部	1	CO	鎌田葉月	神奈川県立横浜清陵高等学校	2	CO

※震災後に転居



参加P:参加プログラム

CO: TOMODACHIサマーコカ・コーラホームステイ研修プログラム
SO: TOMODACHIサマーソフトバンク・リーダーシップ・プログラム
MU: TOMODACHI-MUFG 国際交流サマープログラム
AF: TOMODACHIサマー英語研修プログラム
DA: ダラス・仙台 ヤング アンバサダーズ プログラム（トヨタ自動車、三菱商事、日立製作所）
BI: TOMODACHI2013春休みホームステイプログラム
BT: TOMODACHIサマービヨンドトゥモロー米国プログラム

プログラム概要

スケジュール

3月7日（金）

13:00～14:00	オリエンテーション・アイスブレーキング
14:00～15:30	TOMODACHIセッション　体験共有＆「アメリカで何を学んだか」
15:30～17:00	レクチャー「グローバル・アジェンダとは？」 講師：石倉洋子　慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授 ・なぜ世界のことを学び、国際問題を考えることが重要なのか ディスカッション「何が問題で、なぜ問題なのか」 ・フィリピン台風・ハイチ地震・スマトラ島沖地震/インド洋津波、 それぞれの領域において、今何が課題になっているのか
18:00～19:00	夕食
19:00～21:30	合唱練習＆チームでの対話

3月8日（土）

7:00～ 8:00	朝食
9:00～10:00	海外留学セミナー
10:00～10:30	自己紹介＆クッキーブレイク
10:30～11:00	プレゼンテーション「何が問題で、なぜ問題なのか」 ・7日に作成したプレゼンテーションの発表
11:00～11:30	フィードバック＆課題発表
11:30～12:00	インタビュー準備
12:00～13:00	昼食
13:00～14:30	インタビュー・セッション 乗竹亮治　Project HOPE コンサルタント 古川千晶　特定非営利活動法人難民を助ける会（AAR Japan）支援事業部主任 浅川葉子　特定非営利活動法人ジェン（JEN）情報マネージャー
15:30～16:30	ディスカッション「プレゼンテーション準備」
16:30～17:00	中間発表
17:00～17:30	ディスカッション「最終プレゼンテーション準備」
17:30～18:00	合唱練習
18:00～20:00	ディナー・パーティー

3月9日（日）

7:30～8:30	朝食＆荷物移動
8:30～10:00	合唱練習＆最終プレゼンテーションリハーサル
11:30～13:30	ランチョン／閉会式
13:30～14:00	ラップアップ・リフレクション
15:40	解散

参加学

初日の夜、ビヨンドトゥモロー大学奨学金プログラムに参加する千葉真英さんがファシリテートする体験共有の時間を設けました。2011年3月11日の前と後、自分たちはどのように生きてきたか、語り合いました。本音で語り合えたこの時間は、参加学生たちを1つにしました。

ビヨンドトゥモローナイト

千葉真英
慶應義塾大学総合政策学部

ビヨンドトゥモローは、総合芸術だと思う。全員がコミュニケーションが上手とか、全員がすごい経歴があるとか、そういうことが大切なのではない。それぞれのクセがあって、絶妙なバランスで成り立っている。このアカデミーを作っているのは、ここにいる72名。自分が作っているという意識を持って、つながった共感を思い出して、この3日間を過ごしてください

八重樫怜
岩手県立盛岡第一高等学校

私は生い立ちを説明して自分がかわいそうな子だと言われたいわけではない。自分がこの震災の体験をし、渡米したという結果を用いて、自分は何より強い人間だということを示していきたい。

近藤佑太
宮城県名取北高等学校

去年アカデミーに参加したが、自分の中で悔いが残った。ビヨンドのプログラムを通じて自分は変わった。この一瞬、一瞬が、一度きりの機会だと思います。企画を成功させるために、一人ひとりが自分に悔いの残らないように過ごしてほしい。

佐々木真琴
岩手県立宮古高等学校

私たちのこれからの夢とかやりたいこととかを、私たちができると思ってビヨンドもTOMODACHIも支援してくれている。そういうことをちゃんとわかって、踏まえて、これからちゃんと進んでいける人たちがこのアカデミーに集まっているのだということを感じることができた。だから、私も進んでいかないといけないなと思った。

海外留学セミナー

生の声

TOMODACHIセッション

TOMODACHIプログラムで渡米をして、どのような変化があったのか、日本、そして、世界に対する見方はどのように変わったのか。参加者たちは、それぞれのアメリカでの経験を振り返り、共有しました。

小野禎典
宮城県仙台第一高等学校

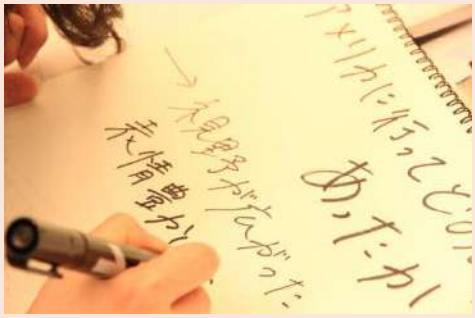
自分の将来のことばかり考えていたが、アメリカに行って世界の将来を考えることが多くなり、また自分が世界のために何ができるのか考えるようになった。世界中すべての人々が分かり合い、平和に暮らすことは必ずしも不可能なことでないのではないかと考えられるようになった。

大塚夏生
福島県立湯本高等学校

アメリカに行って、考え方、価値観が全て変わりました。色々な人に出会い、色々な考え方を知り、可能性が無限大になりました。可能性は無限大という言葉をよく耳にしますが、とても身近に感じられるようになりました。

金あおい
宮城県仙台第二高等学校

私はアメリカで日本とは違った文化や習慣・歴史に直接触れることができ、多くのことを吸収した。精神面においても、同世代の人達がしっかりとした自分の意見を持ち、YesかNoをはっきり決断できることに驚いた。「自分の人生は自分で選択する」ことが大切だと学んだ。



岩渕由佳
仙台白百合学園高等学校

将来はアメリカと日本の関係に携わりたいと思っています。そのために自分は何をしなければならないのか。まずは英語力をつけることだと考えています。大学に入ったらもう一度アメリカに留学してより英語力を高め、アメリカと日本の関係をより向上するためには何が必要になるのか肌で感じたいです。

グローバルに活躍するリーダーを目指す学生たちのために、留学経験を持つ方々から体験談を聞くセッションを設けました。具体的な話を聞き、次のステップをより明確に描く機会になりました。

浜登美海
岩手県立釜石高等学校

留学に対する意識が変わった。留学セミナーの話を聞いて、向こうに行ってからでも、やりたいことが見つかると聞いて、目標がない限り留学しても意味ないのかなぁという考えが変わった。また、恵まれた環境にばかりいるのではなく、難しい環境に行くことも大切という新しい考えが自分の中で生まれた。

プログラムハイライト「グローバル・アジェンダとは？」

グローバル・アジェンダ（地球規模課題）について考える

今回のTOMODACHIビヨンドトゥモロー　グローバル・リーダーシップ・アカデミー2014では、世界の自然災害「フィリピン台風」「ハイチ地震」「スマトラ島沖地震／インド洋津波」に焦点を当てました。

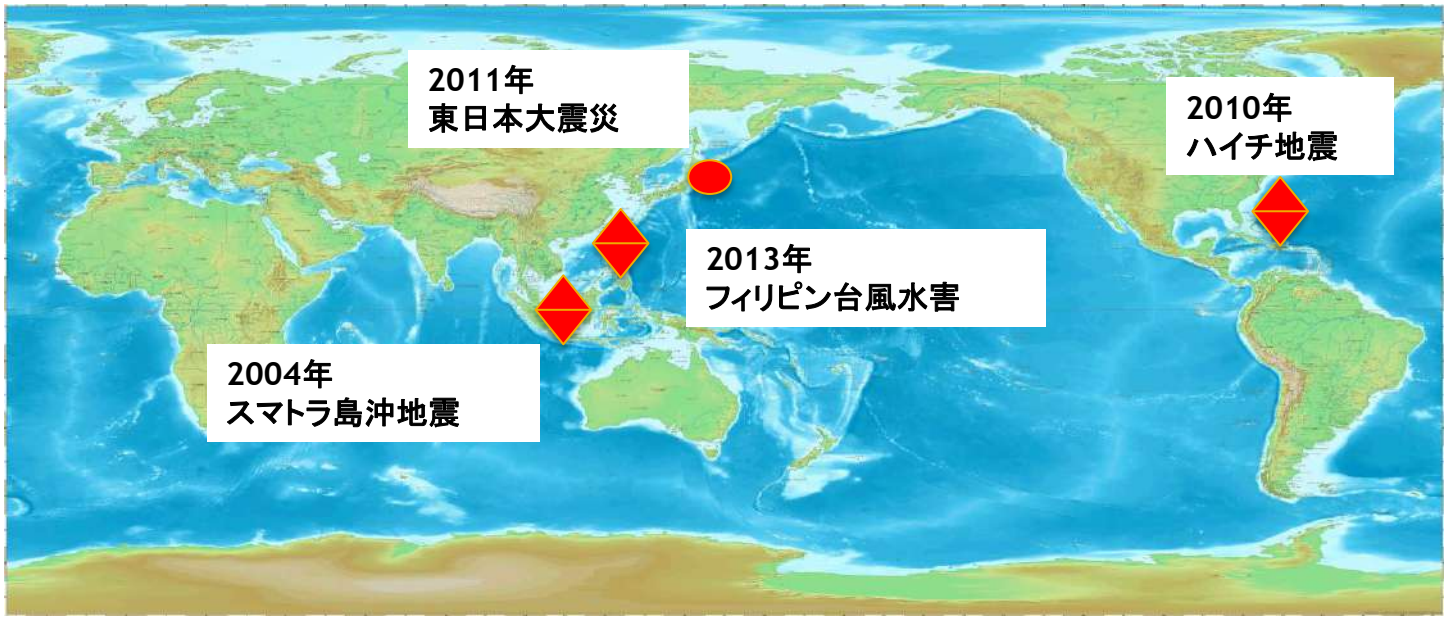
東北から世界を想う – 東日本大震災を経験した自分たちだからこそ、世界の自然災害への取り組みに対して何かできるはず。参加学生たちは、世界に想いを馳せ、グローバル・アジェンダとしての自然災害について学び、仲間たちと議論しました。

課題設定

「東日本大震災を経験した若い世代だからこそ、世界に提案したい自然災害へのアクションプラン策定」

2015年3月に、仙台で国連防災世界会議が開催されます。世界の自然災害のリスクを軽減し、悲劇を減らすための世界的な戦略を議論するこの会議を踏まえ、自然災害へのアクションプランを提言としてまとめます。チームごとに策定したアクションプランは閉会式で発表し、集まったゲストによる投票を行い、1位の班は国連防災世界会議を担当する外務省の地球規模課題審議官に提言を届けます。

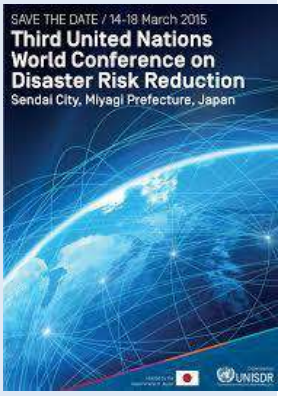
ケーススタディ：世界の自然災害
1. フィリピン台風　2. ハイチ地震　3. スマトラ島沖地震/インド洋津波



第3回国連防災世界会議

国連防災世界会議は、国際的な防災戦略について議論する国連主催の会議で、第1回（1994年，於：横浜）、第2回（2005年、於：神戸）の会議とも、日本で開催されています。第2回会議では、2005年から2015年までの国際的な防災の取組指針である「兵庫行動枠組」が策定。

2015年には第3回目の国連防災世界会議が仙台で行われ、兵庫行動枠組の後継枠組の策定が行われる予定です。



事前課題

参加学生たちには、世界の自然災害についての参考資料がアカデミー開催前に配布され、事前課題が課されました。

1. 【振り返り】アメリカでの変化
2. 【ディスカッション準備】グローバル・アジェンダについて考える
   a.それぞれの災害は、どのような災害だったのか、具体的に書いてください。
   b.災害後の緊急支援活動や復興の取り組みにおいて、どのような課題があったでしょうか。
   c.東日本大震災の支援活動や復興と比較すると、共通点や相違点など、印象に残ったことは何でしょうか。
3. 【リーダとの対話にむけて】リーダーに訊いてみたいこと

プログラムハイライト「グローバル・アジェンダとは？」

ステップ① レクチャー「グローバル・アジェンダとは」

グローバル・アジェンダについてのレクチャー

「グローバル・アジェンダとは何か？」「東日本大震災を経験した学生たちが、なぜそれを考えることが重要なのか？」。地球規模課題としての自然災害。自分の身に降りかかった出来事は、東北だけの、日本だけの問題ではなく、地球規模で取り組まなければならない課題なのだ―。

レクチャーを通して、参加学生たちは自身の体験と世界の課題を結びつけ、グローバル・アジェンダに対する当事者意識を深めていきました。

講師

石倉洋子
慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授

バージニア大学大学院　経営学修士（MBA）修了。ハーバード大学大学院　経営学博士(DBA)修了。マッキンゼー社でマネジャー。青山学院大学国際政治経済学部教授、一橋大学大学院国際企業戦略研究科教授。その他、日清食品ホールディングス、ライフネット生命社外取締役、世界経済フォーラム（ダボス会議）のGlobal Agenda Council Education & Skillsのメンバー。専門は、経営戦略、競争力、グローバル人材。

“自然災害は世界でいつでもどこでも起こりうる。人的被害も経済的被害も発生する。国境を越えることも多くある。地域全体が被害に遭ってしまうと、復興、復興と言われても、そう簡単にはできない。皆さんは東日本大震災という、世界的に見ても最近の非常に大きな自然災害を経験した方々なので、世界のアジェンダに対して、物が言えるのではないか。色々な解決策、そして更なる改善策は、頭で考えるよりも、経験した人にしか導き出せないものが沢山ある。皆さんは大変な経験をしたと思いますが、だからこそできることがあると思う。”

共有された意見 (抜粋)

- 3.11の時は、震災が起こってすぐに、市の職員の方などが建物の点検をしたり、2日も経たないうちに配給があったが、フィリピンの台風では、対応が早急でなかった。しかし、どちらも多くの国々からの支援によってこれからの復興を支えられている。
- フィリピン台風と東日本大震災の相違点は、衛生面の問題だと思う。東日本大震災では、避難所が学校の体育館になることが多く、衛生面には注意しやすい環境だったと思う。
- 支援物資配布の際、東日本大震災では人々が並んでスムーズに食料を受け取っていたが、フィリピンでは「早い者勝ち」のような形で支援を行っていた。共通点は世界各国からの迅速な支援があったこと。
- 近くのスーパーや飲食店を中心に食べ物を提供してくれたおかげで支援の遅れを免れた。また、自衛隊による簡易温泉が設置されたので、感染症が流行することがなかった。

ステップ②

プログラムハイライト「専門家インタビュー」

ディスカッションに新たな視点をとりいれるべく、世界における自然災害への緊急支援や復興支援の第一線で活躍するリーダーを招き、インタビューセッションを行いました。3人のスピーカーは、それぞれの国・地域において、自然災害に対して実際にアクションを起こしている組織のリーダーたちです。

学生たちは、自らの震災での経験を振り返りながら、専門家たちに鋭い質問をぶつけました。実際にフィールドでの活動を引っ張るリーダーたちとの議論は、熱い熱気に包まれました。

テーマA フィリピン台風

乗竹　亮治
Project HOPE　コンサルタント

特定非営利活動法人　日本医療政策機構ディレクターを経て、米国の国際医療支援団体Project HOPE コンサルタント。日本での震災復興支援も担当し、頻繁に被災地に入り、海外組織と現地のコーディネーションを務めてきた。現在の主な活動地域は台風被害のあったフィリピン。オクラホマ州立セントラル大学を経て慶應義塾大学総合政策学部を卒業。オランダ　アムステルダム大学医療人類学修士。趣味は俳句、俳号は涼路。日本医療政策機構フェロー。

“フィリピン台風では、4～6千人の死者がでた。死者数2～3万人の予想よりは少ないが、その数を多いととるか少ないととるかはとても難しいことです。自分たちの冷静で過酷な判断でいうと少ないという判断であるし、フィリピンよくやったと思います。ただ、実際に考えてみると6千人という数はすごい人数。災害支援の仕事をする上で、こういったことに向き合うのは逃れられない宿命だと思います。”

テーマC スマトラ島沖地震/インド洋津波

浅川　葉子
特定非営利活動法人ジェン（JEN）情報マネージャー

1994年、JEN設立の年に就職。1994年から1999年まで紛争中の旧ユーゴスラビア地域に駐在。難民、国内避難民を対象とした心理社会プロジェクト、収入向上プロジェクト、難民キャンプ運営などの事業に従事。1999年よりJEN本部事務局（東京）勤務。JENは、自然災害や紛争が起きた地域で緊急復興支援を行うNGO。現在、アフガニスタン、パキスタン、スリランカ、ハイチ、ヨルダン（シリア難民）、宮城県石巻市などにて支援活動を行っている。

専門家へのインタビューセッション

テーマB
ハイチ地震

古川　千晶
特定非営利活動法人難民を助ける会
（AAR Japan）　支援事業部主任

大学卒業後、人材コンサルティング会社などを経てイギリスの大学院で国際開発学を学び、帰国後AARへ。2010年1月に発生したハイチ大地震の緊急および復興支援のため1年2ヵ月ハイチに駐在。その後、2012年1月からは東京事務局で勤務し、紛争後の平和構築に携わるべく、地雷対策を展開するアフガニスタン事業を担当。また2013年7月からは、アフガニスタン事業とともにミャンマーカレン州における地雷対策事業を担当。

“ハイチには防災の習慣はない。学校に行っていない子どもが多く、識字率も半分以下。教養のある家庭で育った子どもたちは、アメリカに行ってしまう。おのずと知識のない人がハイチに残らざるを得ない。私が接したハイチの若者には、諦め感が漂う。生まれたときから貧しく、自分達は外の世界の人たちとは違うという割り切り感がある。雇用の創出などにお金が回れば状況は変わるかもしれない。”

“津波の被害にあったところは漁業に従事している方が多い。ものは流されたが、スキルや漁業の経験は流されない。紛争でもスキルと経験は誰にも奪えない。ものを支援すれば、自分達の経験やスキルを使って自分達の生活を支えていくことができるので、その足りなくなってしまったもののサポートをする。私たちが現場で一番考えているのは、いかに自立を支援するかということ。緊急支援だが、緊急のときにいかに自立を支援できる活動をできるかということに心を砕いている。”

プログラムハイライト「リーダーとの対話」

ステップ③ リーダーとの対話

様々な分野で活躍されているリーダーをお招きし、キャリアや、どのように社会に貢献していくべきかなどについて話し合う機会を設けました。各界で活躍されているゲストとの対話は、学生の視野を広げ、未来のリーダーとなるための大きな一歩となりました。

高橋大就
一般社団法人東の食の会
事務局代表

外務省入省後、在米国大使館勤務を経て、日米通商交渉を担当。のち、マッキンゼー＆カンパニーにおいて農業関連等のプロジェクトを手がける。東日本大震災直後からマッキンゼー社を休職、NPOに参加し東北で支援活動に従事する傍ら、一般社団法人「東の食の会」の立ち上げに関わり、2011年6月東の食の会発足と共に事務局代表に就任。同年8月、オイシックス株式会社入社。

乗竹亮治
Project HOPE
コンサルタント

特定非営利活動法人　日本医療政策機構ディレクターを経て、米国の国際医療支援団体Project HOPE コンサルタント。日本での震災復興支援も担当し、頻繁に被災地に入り、海外組織と現地のコーディネーションを務めてきた。現在の主な活動地域は台風被害のあったフィリピン。オクラホマ州立セントラル大学を経て慶應義塾大学総合政策学部を卒業。オランダ　アムステルダム大学医療人類学修士。趣味は俳句、俳号は涼路。日本医療政策機構フェロー。

原聖吾
マッキンゼー・アンド・カンパニー

東京大学医学部、スタンフォード大学経営大学院卒業。国立国際医療研究センター（国立国際医療センター：当時）を経て2007年に日本医療政策機構へ参画。生活習慣病、グローバルヘルス（国際保健）プロジェクトの立ち上げに携わる。現在マッキンゼー・アンド・カンパニー勤務。医師というバックグラウンドを活かしながら、さまざまなステークホルダーを巻き込んでの医療課題の解決に貢献すべく、政策立案、ビジネス、NPO/NGO活動など多岐に渡る領域での活動に取り組んでいる。

藤田華子
群馬大学医学部

2001年から03年UWCSEA（シンガポール校）に留学。07年国際基督教大学教養学部理学科卒業。07年から10年ゴールドマンサックス証券に勤務。留学での経験や教育を、広い社会に還元したいという思いから、同証券会社を退職。10年4月より、群馬大学医学部医学科二年次へ編入し、現在に至る。

長野りえ
NPO法人人身取引被害者
サポートセンター
ライトハウス

米国の州立大学、ソーシャルワーク学部卒業後、緊急用シェルターでケースワーカーとしてホームレス、DV、人身取引、難民など、女性と子どもの被害者の直接支援に従事。日本帰国後、人道援助の国際NGOにて、広報、ファンドレイジングを6年間担当。現在は、外資系IT企業のマーケティング部勤務。NPO法人ライトハウス（前・ポラリスプロジェクトジャパン）には7年ほど前から入り、イベント運営や講演なども行う。岐阜出身。

ステップ③ リーダーとの対話

松田悠介
NPO法人Teach For Japan
代表理事

体育科教師（中学校）、千葉県市川市教育委員会、教育政策課分析官、PwC Japanを経て、現職に至る。ハーバード教育大学院卒業。日経ビジネス「今年の主役100人」に選出。世界経済会議GSCメンバー。経済産業省「キャリア教育の内容の充実と普及に関する調査委員会」委員。共愛学園前橋国際大学「グローバル人材育成推進事業」外部評価委員。京都大学特任准教授。著者に「グーグル、ディズニーよりも働きたい「教室」（ダイヤモンド社）」。

三橋乃佑里
アメリカ大使館
ユースアウトリーチスペシャリスト

高校1年から単身米国留学。2003年成績優秀（Cum Laude）で寮制の高校を卒業。Boston Universityでは経営学を専攻。寮長・日本人会にてリーダーシップ経験を積む。2007年最優秀成績（Summa Cum Laude）で卒業。帰国後リクルート入社。新卒採用事業（ネットサービス）の新規事業立ち上げを経験後、2009年12月より在日米国大使館にて学生・若者向けイベント企画、ソーシャルメディア、ウェブサイト立ち上げなど新規企画を成功させる。趣味は旅行、テニス、ハワイアンキルト。

矢部寛明
一般社団法人アショカ・ジャパン
ユースベンチャープログラムリーダー

2011年早稲田大学を卒業。高校卒業後、
「世界を見たい」と一年間オーストラリアに渡豪。現地では世界各国から旅する若者と交流し視野を広げた。一方で特技であるビリヤードで生活費を賄いながら暮らす。震災後、内定先の会社を辞退し気仙沼入り。物資支援、被災地区にあったホテルの再営業支援、学習支援を行う。現在は東北を中心に「何かしたい」と強く思う若者をサポートし、イノベーターを数多く育成、輩出している。座右の銘は「行動はメッセージ」

吉岡利代
ヒューマン・ライツ・ウォッチ
シニアアソシエート

国際人権NGOヒューマン・ライツ・ウォッチ（HRW）のシニアアソシエート。高校、大学を米国と英国で過ごす。留学から帰国後、ゴールドマン・サックス証券の調査部に勤務したのち、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）にて日本国内の難民申請者の保護活動に従事。2009年4月、HRW東京オフィスの創設メンバーとなり現在に至る。The 41st St. Gallen Symposium 参加者、2011年AERA「日本を立て直す100人」に選出。2011年より、世界経済フォーラム（WEF）Global Shapers Community（GSC）メンバー。

プログラムハイライト「閉会式／提言発表会」

2015年3月に仙台で開催される国連防災世界会議を踏まえ、世界の自然災害への取り組みに対して提言を発表する学生たち。日本政府、米国政府、民間企業、アカデミア、メディア、市民団体など、各界を代表するゲストが集まり、学生たちの提言に耳を傾けました。マルチステークホルダーが集まったその場は、自然災害リスク削減というグローバル・アジェンダを、東北の学生が中心となり、東北が、そして日本がイニシアチブを取り、解決に向けて取り組むためのプラットフォームとなりました。

スペシャル・メッセージ

カート・トン
駐日米国大使館首席公使

リーダーには、3つの要素があると私は思います。1つはCourage（勇気）—ここに集まっている若い人たちは皆、東日本大震災からの復興やその他の難しい社会問題に取り組む勇気を持っていると思います。2つめはConfidence（自信）—皆、このアカデミーで自信を持つようになったのではないでしょうか。3つめはCuriosity（好奇心）—世界中のリーダーたちを見ると、必ず好奇心を持っています。皆さんは、世界の問題にこれから一生懸命取り組むような、勇気、自身、そして好奇心を持っているのではないかと思います。皆さんには、本当に、これからの日本のグローバルリーダーになってほしいです。

ティム・ラティモア
バンク・オブ・アメリカ・グループ　在日代表
メリルリンチ日本証券株式会社　代表取締役社長

私たちは、継続支援の大切さを実感し、継続的に震災復興に関わりたいという気持ちを持っています。東北の復興に立ち会い、更には、世界各地で頻繁に起きている自然災害にどのように対応していくことができるかを、ここにいる皆さんと考えていきたい。アカデミーに参加された皆さんが将来、この地球のリーダーとして活躍されるような人材になることを心から願っていますし、これからも支援を続けていきたいと思います。何事も続けていくことが大切です。皆さんが「レジェンド」となることを期待しています。

橋本大二郎
武蔵野大学客員教授、慶応義塾大学特別招聘教授
前高知県知事

まもなく震災から3年。人々の記憶は確実に薄れてきます。ですから、被災した子どもたちを応援しようというだけだとどこかで息が切れてくるかもしれません。しかし、世界の仲間と結び合って、ふるさとの応援をしていく。また、そういう人をつくっていく。その人づくりのノウハウを蓄えていく、というプログラムであれば、何十年も色褪せることはないと思います。高校生、大学生のみんなにもずっと長く継続するエネルギーを持ち続けて欲しいなと思いますし、また、ビヨンドトゥモローはそのような子どもたちを手助けしていくプログラムであり続けたいと思います。

提言発表

学生への応援メッセージ

安倍昭恵　首相夫人

東日本大震災から3年になります。多くの方の命が犠牲になりました。心よりお悔み申し上げます。しかし、この震災をきっかけとして、たくさんの素晴らしい関係が生まれ、友情が生まれ、日本人の意識が変わってきたように思います。2万人を超す亡くなった方たちの魂が、今、私たちに何かを語りかけているように感じています。私たちはそれをしっかりと無駄にしないように受け止めていかなくてはいけません。私は、人にはそれぞれ皆、使命があり、それぞれが経験をすることについても、その使命を果たすための何らかの意味があるのだと考えています。被災した皆さんは、本当に辛い、大変な経験をされたと思いますが、それだけに、きっと大きな使命を持っているのだと思います。被災地の復興だけではなく、日本のために、世界のためにどうかこれからも活躍していただきたいです。

プレゼンテーションに盛り込む内容

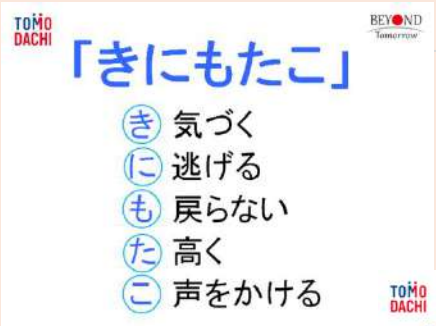
1. 与えられた課題について、何が問題なのか
2. 今後、世界で起こりうる災害を視野に入れた、改善策のあり方。
3. 若い世代である自分たちに具体的に何ができるのか。

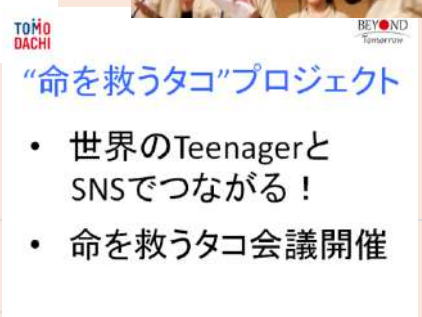
審査基準

1. 具体性
   提言の内容が具体的か。
2. スピーカーからの知見
   アカデミー中に学んだ専門家からの知見を、提言に取り入れているか。

提言発表内容　最優秀チーム

9つのチームがそれぞれに、2泊3日の集大成を閉会式で発表し、ゲストの方に投票していただき、最優秀チームが選ばれました。「フィリピン台風」をテーマにアクションプランを作成したチーム3が最優秀賞に選ばれました。





学生への激励のメッセージ

デーブ・スペクター
（株）スペクター・コミュニケーションズ 代表取締役　放送プロデューサー

みなさんの一番の武器は、若いということ。東日本大震災という悲惨な出来事がきっかけで始まりましたが、被災地、自分たちの文化、生まれ育ったところ、全てが今大変に注目されています。これをチャンスとして使って下さい。自分の人生のためにも、そして亡くなられた人のためにも、そして自分の出身の地域のためにも、使ってください。

地球規模課題審議官への提言提出

2泊3日のプログラムで、学生たちによってつくられた、東日本大震災を経験した若い世代だからこそ世界に提案したい自然災害への取り組みに対する提言。提言発表会で、ゲストによる投票で選出された優勝チーム（3チーム）の提言が、2015年の国連防災世界会議を担当する、外務省の地球規模課題審議官へ届けられました。

香川剛廣
外務省地球規模課題審議官　大使

皆さん被災地の高校生ということもあり、今回テーマとなっている、ハイチ・スマトラ・フィリピンそれぞれの被災地にも共通するような問題を鋭く捉えている点、本当に良かったと思います。共通するテーマとして、忘れない、風化させないということをいくつかのチームが訴えていましたが、まさに若い世代の皆さんが「忘れない」と努力していく、働きかけていくということ自体が、大きな防災の中核をなす努力になるのだと思います。世界と繋がりつつ、世界と協力して一緒になってそういう取り組みを進めていくことが非常に大切です。

2015年3月14日から18日まで仙台で国連防災世界会議が開催されます。防災会議のテーマとして、Build back better—よりよい社会をコミュニティをつくりあげていくためにはどうしたらよいのか、あるいはbounce forwardという言葉も使っています。要するに、単に元に戻すのではなく、より良い世界をつくりあげていくための努力を世界と協力していきたいということです。ぜひここにいる皆様のご協力を得ながら、会議を盛り上げて参りたいと思います。

メディアへの掲載

新聞

「若者　世界へ防災提言　被災3県生徒ら発表」
(2014年3月10日 岩手日報)

「15歳　自分も復興世代」
(2014年3月11日読売新聞)

若者 世界へ防災提言

被災3県生徒ら発表

国際会議を呼び掛け

15歳「自分も復興世代」

The power
of global
connections

TOMO
DACHI
BEYOND
Tomorrow

プログラムハイライト「閉会式／提言発表会」

学生代表スピーチ

佐藤迅
宮城県農業高等学校卒業

宮城県仙台市出身、宮城県農業高等学校をこの3月に卒業しました、佐藤迅です。

東日本大震災が発生する数週間前、高校入試がありました。3人兄姉（きょうだい）の末っ子の私を一番可愛がってくれていた母は、震災の前日、「迅の入試の結果は、しっかり二人で見に行こうね」と言ってくれていました。しかし、その夜、些細なことで喧嘩し、母に罵声を浴びせてしまいました。

3月11日、私は体調が悪く、学校を休むことにしました。母はそんな私のために、出かける予定を止め、家に残ってくれました。私と姉が母を一人家に残し外出していたとき、今までに感じたことのない大きな地震に襲われました。私と姉は急いで自宅に戻りましたが、母の姿はありませんでした。私たちは、母は避難したものだと考え、安全な場所にある父の職場に避難しました。

翌日、私は母を探しました。前日まであった私の街は変わり果て、家の周りには津波で亡くなった方々の遺体がありました。私は避難所を回り、母を探し続けましたが、ついに見つけることができませんでした。ある日、母は一緒に逃げていた友人家族と津波に流された、ということが私たち家族に伝えられ、やがて、その友人家族の遺体が見つかりました。私はその現実を受け入れることができませんでした。私の母は、今でも見つかっていません。

数日後、私は父に連れられ、入試の結果を見に行きました。合否を告げる掲示板に、私の番号がありました。

涙が止まりませんでした。私はそこに、母と一緒に行くはずでした。けんかなんかしなければ良かった。謝ることすらできなかった。産んでくれたことに、ありがとうと伝えることもできなかった。もっと、一緒にいたかった。私の頭の中に、母と過ごした幸せな日々が一つ一つ浮かんできました。自分がもっと素直にしていれば、母は助かったかもしれない。私は自分を責め、心の中で、ごめんね、ごめんね、と謝ることしかできませんでした。

そんなとき、ビヨンドトゥモローと出会いました。
私と同じように震災の痛みを経験している学生たちが活動していると聞き、参加してみたいと思いました。

“遠くの存在であったはずのアメリカの人々が心を寄せ、涙を流してくれた。だから私には語る意味があるかもしれない、そう思うようになりました。

この夏、私は、ビヨンドトゥモローのプログラムで11人の仲間とアメリカに行きました。それまで、自分の震災の体験を話すことは正直言って嫌でした。周囲の人たちに距離をおかれてしまうような気がしていたからです。しかしアメリカで、先輩たちに背中を押され、スピーチをする機会をもらいました。すると、アメリカの人たちは涙を流しながら私の話を聞いてくれました。それが私を変えました。

震災時、海を越えたところにいて、震災を体験したわけでもなければ、これまでの私を知っていたわけでもない。そんな遠くの存在であったはずのアメリカの人々が心を寄せ、涙を流してくれた。だから私には語る意味があるかもしれない、そう思うようになりました。私は、一人じゃない。辛い経験をした自分たちだからこそ、社会に伝えられることがある。ビヨンドトゥモローの仲間たちに、そう教えられました。

今回のアカデミーに参加するにあたっては、自分がビヨンドトゥモローの先輩たちに助けてもらったように、新しく来る高校生たちをサポートする側にまわりたいと思っていました。人を笑わせてあげることで、辛い状況から前に進む手助けをしたいと考えました。しかし、実際にサポートしようとすることで、自分が救われることを知りました。人の役に立とうとすることで、自分自身が力をもらうことを知ったのです。人をサポートしようとすることで自分自身が成長できることを今回知り、今後は、それを行動に移せる人間になりたいと思います。

私は、これまで母の死について、ずっと後悔して生きてきました。しかし、今ここに「ないもの」を追いかけるのではなく、今確かに「あるもの」に感謝し、これから「生まれてくるもの」を信じて生きていきたいと思えるようになりました。私には夢があります。地域行政に関わり、東北を元気にしていくことです。これまで守られてばかりだった私ですが、これからは母の生きた証でもある自分自身や家族を大切にし、誰かを守っていけるような人間になりたいです。それが母に感謝の気持ちを伝える、唯一の方法だと思います。

浜登美海
岩手県立釜石高等学校

岩手県釜石市からきました、岩手県立釜石高等学校1年の浜登美海です。

3年前に起きた、東日本大震災は、私の人生の中で最も辛い出来事です。自宅にいた母と妹と祖父母が津波に流され亡くなりました。思い出がたくさん詰まった家も大事なものもすべて失いました。父から家族の死を知らされたあの日、私は一生分の涙を流したと思います。

いつもそばにいてくれたことを当たり前と思い、お母さんにありがとうと言えなかった。変な意地をはって家族に感謝できなかった幼すぎた自分に腹が立ちました。あの時もし自分が家にいたら、幼い妹の恐怖をぬぐってあげられたかもしれない、じいちゃんの車いす押して坂だって登った、ばあちゃんの手を引いて一緒に走ることだってできた、お母さん一人に与えられた不安を少しでも自分が背負うことだってできた。後悔ばかりがつのりました。

でも、あの時は家族みんなが涙を堪えて生活していたはずでした。だから自分だけが泣くわけにはいかない。どうしても泣きたい時は夜、布団の中で声を押し殺してなく日々が続きました。

でも、通っていた中学校の校舎はたくさんの支援物資で溢れかえっていました。日本中に自分たちのことを思ってくれる人たちがいると知りました。そして父はいつもこう言っていました。今まで自分たちを応援してくれた人たちに必ず恩返しをしなくてはいけない。震災を経験して、人の温かさに気づき、当たり前にいる存在を大事にしようと思える自分に生まれ変わることができました。震災は私にとって、とても辛い出来事でしたが、私を確実に強くさせてくれました。

“震災を経験して、人の温かさに気づき、当たり前にいる存在を大事にしようと思える自分に生まれ変わることができました。震災は私にとって、とても辛い出来事でしたが、私を確実に強くさせてくれました。”

昨年の夏、私は、TOMODACHIサマーソフトバンク・リーダーシップ・プログラムでカリフォルニア大学バークレー校に行きました。初めて行ったアメリカで、東北のためにアクションを起こしている仲間たちと出会い、私は大きな刺激を受けました。そしてアメリカ滞在を通して、自分も地元にとって必要な人になりたいと思い始めるようになりました。アメリカに行ったことで、消極的な自分から、リーダーになって周りを引っ張っていけるような自分に変わったと思います。

今、私は発展途上国の問題に興味を持っています。発展途上国では、子供達が基礎教育を受けられない、女性の権利抑圧、人身売買など様々な課題が存在します。世界中の人々が安心して暮らせるようにサポートできる団体を立ち上げたいと思っています。自分のことだけでなく周りのことを気遣える優しさや、他国についてたくさん知ることの大切さ、それを学んだ上で自分の国を見つめ直したときに他国のために何ができるか気づくことをアメリカで学びました。このようなことを活かして、将来、発展途上国のための団体設立という夢に役立てたいと思います。

今回のアカデミーに参加して、私は、アメリカ留学に大きな夢を抱くようになりました。これまでは、目標や計画ができるまで留学できないのではないかと思っていましたが、海外で活躍する方々のお話を聞き、新しいことにチャレンジしながら、新しい目標を探し、前に進んでいくという夢の探し方もあるのではないかと思うようになりました。今回の学びを胸に、これから、臆することなく、どんどん新しいことにチャレンジしていきたいと思います。

プログラムハイライト「ラップアップ・リフレクション」

参加学生が熱い議論を交わし、提言を作成した2泊3日。バンクオブアメリカ・メリルリンチの社員ボランティアの方々が、各チームに入り、学生たちの提言作成をサポートして下さいました。学生たちは、社会で活躍するメンターの方々から、提言作成だけでなく、自らの将来のビジョンやキャリア等、様々なアドバイスを頂きました。

プログラムの最後には、バンク・オブ・アメリカ・グループの在日代表と社員メンターの方々とのパネルディスカッションが開催されました。人生の本質に迫る学生たちの質問に、真摯に応えるリーダーたち。2泊3日のプログラムは、熱い議論で締めくくられました。

できるだけ色々な人と接触した上で、戦略を立てるべき。

Q. 自分の出身とは違う国で仕事をしたり、違う国の方と仕事をする上で、コミュニケーションの取り方やリーダーシップのとり方について気を付けていること、心がけていることはありますか。

ラティモア：1番危ないのは、社長が社長室で1人で座っていろいろ決めること。私は、部長・課長レベルにいたるまでできるだけ多くの社員と会って、短い時間でもできるだけ直接コミュニケーションをとること心がけています。どのようにより良い会社にしていくかということは、社長だけでは分からない。それぞれの社員の意見を聞き、様々な部署の意見を聞いた上で方向性を決める。できるだけ色々な人と接触した上で、戦略を立てるべきだと信じています。

ティム・ラティモア
バンク・オブ・アメリカ・グループ　在日代表
メリルリンチ日本証券株式会社　代表取締役社長

関満一郎
メリルリンチ日本証券株式会社
アジアパシフィック レーツアンドカレンシーズ

大人になるということは、「無責任」から、「責任を取る」存在になること。

Q. 自分が大人になったと感じたときはどの瞬間だったか。またリーダーシップをとっていると感じる瞬間は。

関満：大人になるということは、「無責任」から、「責任を取る」存在になることだと思います。自分で働いて、自分で生きているんだ、誰かに頼りきりになるような甘い人生ではないのだと感じた時に、大人になったと実感しました。リーダーシップというのはチームで何かをしようというときに、自分1人でやることではありません。リーダーというのは人のリーダー。1人ではなく、チームをどう引っ張っていくかということ。今回どのメンターも同じように感じたと思うのですが、みなさんはリーダーシップの素質があると思います。

林：挫折というか、人生で決めていたことが180度転換してしまったが、それでも乗り越えて次のステップに進まなくてはいけないのだと自分で決めて進んだときに、1つ越えたなと感じた。会社に入って、自分より若い世代が後輩で入ってきて、育てていかなくてはいけなくなった時に、社会人としてのリーダーシップを身につけなくてはいけないんだと思いました。

気持ちが色々なことに新鮮なうちに、色んなことを考えたり、悩んだ方がいいと思う。その中にきっと見えてくるものがある。

Q. 私は高校2年生で、あと高校生活が1年あるのですが、この1年で何ができるんだろうという焦りもあります。高校生のうちにこれだけはやっておいた方がいいということや、自分が学生のときにこれだけは決めてやっていたということがあれば教えてください。

ラティモア：アメリカの大学に入る時は、高校で何を勉強したかだけでなく、それ以外に何か意味のあることをしたかを質問されます。今までの人生は何だったのか、という重い質問ですが、皆さんは三年前の震災を経験しているし、今もこのようなプログラムに参加している。これはとても意味のあることです。どうしてもやりたいということを、とにかく1つでも見つけて高校の間にやっておくのがいいと思います。

関満：あなたは、就職や進学などまた新しい経験をしていくと思いますが、とにかく悔いのないようにすることです。今は過去になっていくので、心の中で、将来のためにできることが今あるのであれば、やっておいたほうがいい。悔いのないようにやってください。

林：私が高校生の時は、女性が社会で何ができるのかとか、女性はお嫁に行けと言われていた時代でした。しかし、私は違うのではないか、自分には社会で何かできるのではないかと、答えは出なかったが悩んでいました。高校時代は、友人と相談したり、大人としゃべったり、悩んで考える時期。気持ちが色々なことに新鮮なうちに、色んなことを考えたり、悩んだりした方がいいと思う。その中にきっと見えてくるものがある。でも、悩んだままでは前に進めないから、前に進みながら悩んでいけばいいのではないか。

林礼子
メリルリンチ日本証券株式会社
資本市場本部　債券資本市場部

チーム1
林　礼子
メリルリンチ日本証券株式会社
資本市場本部　債券資本市場部

昨年に続き参加しました。昨年お会いした皆さんの力強い成長、そして新しくお会いした皆さんの積極性、向上心を強く感じました。3月11日から時が経つ中で、生徒の皆さんも我々大人も、やらなければいけないことが少しずつ変わってきていること、一方で、いくら時が経っても変わってはいけないことがあることを感じた3日間でした。またお会いするのを楽しみにしています。

チーム2
関満　一郎
メリルリンチ日本証券株式会社
アジアパシフィック　レーツアンドカレンシーズ

昨年のアカデミーに参加し大変な感銘を受けたので、今年も絶対に参加しようと心に決め、アカデミー開催を心待ちにしていました。これから世界で活躍する次世代を育てること以上に意義のあることはないと思っています。今年も学生の皆さんと共に、素晴らしい時間を過ごさせて頂きました。

チーム3
住谷　衣美
メリルリンチ日本証券株式会社
上場デリバティブズ

数年前まではリードされていた子達が、今では世界をリードするための課題に取り組んでいる。その前向きな姿勢に驚かされました。教訓を次に生かすこと。彼らが持つ使命感が世界を動かす原動力になるのだと思いました。3班の皆と出会えた事は自分の人生において財産となっています。

チーム3
野田　司
メリルリンチ日本証券株式会社
広報部

自分が高校生のときに参加したかったと思いました。社会で活躍する様々な人の生の姿に触れながらリーダーシップについて学ぶ機会は、普通の高校生活を送っていたら経験できないことです。この貴重な機会を提供してくれた人々への感謝を忘れずに、これからも自分を磨いていってほしいと思います。

チーム4
藤澤　兼三
メリルリンチ日本証券株式会社
証券業務部

被災をネガティブに捕らえるのではなく、被災によって今回のイベントに参加するチャンスを受けたり、自分を更に向上する機会を提供してもらったりと前向きに捕らえることが出来る生徒さんが多く非常に感銘を受けました。プレゼンテーション作成をサポートする立場にいたにも関わらず、彼らから勉強することができ、また元気をいっぱいもらいました。

チーム4
白倉　由美子
メリルリンチ日本証券株式会社
株式部

このように志の高い方々と時間を過ごし、プロジェクトに参加できたのは、非常に良い機会でした。次世代は才能に溢れているので、日本の未来は素晴らしいと思いますし、国際的にも成功することと思います。

チーム5
三塚　英毅
メリルリンチ日本証券株式会社
証券業務部

学生の現実を冷静に捉える力と、未来を切り開こうとする意思から、私の方がたくさん教えて頂きました。学生、リーダーの皆様、事務局の皆様、楽しい2日間をありがとうございました。

チーム5
宇山　真理子
メリルリンチ日本証券株式会社
ビジネス・インフォメーション

今年は2回目の開催ということで、昨年高校生だったメンバーが大学生リーダーとして戻って来ていて、彼らの成長を頼もしく感じるとともに、プログラムもより充実していると思いました。震災の記憶を風化させてはいけないという彼らの言葉に、継続的な支援の必要性を再確認しました。

チーム6
篠崎　裕一郎
メリルリンチ日本証券株式会社
金融商品開発部

2013年に続き参加させて頂きました。一部の学生さんは昨年に引き続きの参加で再会もあり、その成長をまのあたりにし大変嬉しかったです。被災地での大変な環境にも関わらず夢に邁進する彼らを見て、陰ながら応援したいと思うとともに、勇気を貰いました。有難うございました。

チーム6
伏見　康代
メリルリンチ日本証券株式会社
人事部

彼らの自由な発想や意見交換をメンターとして間近で見聞きする中で、他者の違いを尊重しながら積極的に行動する彼らの姿勢に大きな感銘を受けました。
このような貴重な場を若い世代に提供して下さるBEYOND Tomorrow及び関係各位のご尽力に感謝の気持ちで一杯です。

チーム7
中鶴　周
メリルリンチ日本証券株式会社
証券業務部

高校生の皆さんの、辛い体験を経てそれでも前進しようとする強い意思に圧倒される思いの2日間でした。プレゼンの準備は不慣れなため難航したものの、メンターからのヒントを自分たちなりに消化し、自分たちの表現で完成させました。若者ののびしろは侮れません！

チーム7
林原　麻里子
メリルリンチ日本証券株式会社
広報部

自分の意見をしっかりと持ち、主張ができる学生たちと2日間一緒に過ごすことができて、自分自身を見つめ直すきっかけとなったことと、またエネルギッシュな次世代の若者を目の当たりにして日本の将来は明るいと確信をもちました。
ぜひ世界に飛び出していってほしいです。

チーム8
小室　聖子
メリルリンチ日本証券株式会社
人事部

このイベント期間中に留まらず、このイベントをきっかけに考えたことや学んだことを日常に落とし込もうと継続的に自分達ならではできることを模索し続けるみなさんの姿勢やこのイベントの影響力に感銘を受けています。個性溢れるみなさんの底力を目の当たりにし、この企画を実現させたみなさまに感謝したい気持ちになりました。若きホープたちの力を引き出すこの素晴らしい企画に参加できたことを光栄に思います。

チーム8
Kim Young
メリルリンチ日本証券株式会社
総務部

想像もできない程の辛い経験をしたはずの子供たちが、その小さな体で過去を悔やみながらも前向きに勇気を出し新たな道を切り開いて行く姿に、本当に心を打たれました。目の前の自分の仕事や苦労など、彼ら彼女らの経験からしたら小さなもの。沢山の勇気をもらいました。本当にありがとう。

チーム9
倉智　啓子
メリルリンチ日本証券株式会社
金融商品開発部

昨年同様に高校生/大学生の短時間での結束力、チームワークには衝撃を受けました。寝る時間を削ってみんなで練習したプレゼンテーションはすばらしかったと思います。また来年も参加できるよう自分自身を成長させておきたいと思います。ありがとうございました。

チーム9
松永　香織
メリルリンチ日本証券株式会社
証券業務部

実際に未曾有の災難を経験した学生達と,災害をテーマにした今回のディスカッション及び発表のメンターとして参加させて頂きましたが、こちらが色々と考えさせられ教えられ事が多くあり実りあるものでした。 これからの日本を担っていく素晴らしい人材である彼らは力強く、そんな彼らと2日間を過ごせたのは私の人生においても貴重な経験させて頂き感謝の念でいっぱいです。

合唱

未来へ

ほら　足元を見てごらん　これがあなたの歩む道
ほら　前を見てごらん　あれがあなたの未来

母がくれたたくさんの優しさ　愛を抱いて歩めと繰り返した
あの時はまだ幼くて意味など知らない
そんな私の手を握り　一緒に歩んできた

夢はいつも空高くあるから　届かなくて怖いね　だけど追い続けるの
自分の物語だからこそ諦めたくない
不安になると手を握り　一緒に歩んできた

その優しさを時には嫌がり　離れた母へ素直になれず

ほら　足元を見てごらん　これがあなたの歩む道
ほら　前を見てごらん　あれがあなたの未来

その優しさを時には嫌がり　離れた母へ素直になれず

ほら　足元を見てごらん　これがあなたの歩む道
ほら　前を見てごらん　あれがあなたの未来

ほら　足元を見てごらん　これがあなたの歩む道
ほら　前を見てごらん　あれがあなたの未来
未来へ向かって　ゆっくりと歩いて行こう

協力団体

TOMODACHIビヨンドトゥモロー　グローバル・リーダーシップ・アカデミー2014は、バンクオブアメリカ・メリルリンチのご支援によって運営されています。ビヨンドトゥモローの事業は、多くの方々からのご支援によって支えられています。皆様のご支援・ご協力に、感謝申し上げます。

Bank of America Merrill Lynch

ビヨンドトゥモロー　ストラテジック・パートナー
ビヨンドトゥモローの活動に1000万円相当以上のご寄付をいただいた企業・団体

- ジャパン・ソサエティー
- 武田薬品工業株式会社
- バンクオブアメリカ・メリルリンチ
- 米日カウンシル
- 三菱重工業株式会社

ビヨンドトゥモロー　プロジェクト・パートナー
ビヨンドトゥモローの活動に100万円相当以上のご寄付をいただいた企業・団体

- 株式会社アルビオン
- ap bank Fund for Japan
- キッコーマン株式会社
- KPMG ジャパン
- 一般財団法人　国際ビジネスコミュニケーション協会
- 住友化学株式会社
- 公益財団法人　東日本大震災復興支援財団
- 日本GE株式会社　GEキャピタル
- プロジェクトホープ
- 米日財団
- ペンシルバニア大学　ウォートンスクール
- 株式会社ポイント
- ロート製薬株式会社

ビヨンドトゥモロー　プロボノ・パートナー
ビヨンドトゥモローの活動に商品・サービスの形でご寄付・ご協力をいただいた企業・団体

- 株式会社アゴス・ジャパン
- あずさ監査法人
- 株式会社海外教育コンサルタンツ
- キンコーズ・ジャパン株式会社
- コニカミノルタ株式会社
- 株式会社リクルートホールディングス

ビヨンドトゥモロー・マネジメント・パートナー
ビヨンドトゥモローの組織運営に関わる人材を、長期的に派遣してだいている企業・団体

- ロート製薬株式会社

夏季グローバル研修欧州プログラム特別パートナー
ビヨンドトゥモロー夏季グローバル研修2013欧州プログラム開催に際してご協力をいただきました

- エアバス

その他ご寄付をいただいた皆さま

- 株式会社ウェルネス・アリーナ
- サルサンバ会
- GE Power & Water リーダーシップアワード・メンバー一同

ビヨンドトゥモロー　スカラーシップ・パートナー
奨学生枠の提供をいただいた教育機関・教育団体

- Leelanau School（米国・ミシガン州）
- Leysin American School（スイス・ヴォー州）
- St. George's School（スイス・ヴォー州）
- St. Michael's College（英国・ウスターシャー州）
- St. Timothy's School（米国・メリーランド州）

ビヨンドトゥモロー　スカラーシップ・パトロン
ビヨンドトゥモロー・スカラーシップ・プログラムに奨学金枠をご寄付いただいた個人の方々

- 大塚 太郎　様
- 小林 正忠　様
- 佐藤 輝英　様
- 船橋 力　様
- 本庄 竜介　様
- 松古 樹美　様
- 松本 大　様
- 茂木 友三郎　様
- ロバート・アラン・フェルドマン　様

この他にも、多くの方々にご支援・ご協力をいただいております。深く御礼申し上げます。
※上記には、2014年3月時点でご支援・ご協力頂いております皆様を掲載させて頂いております。

ビヨンドトゥモロー とは

概要

「ビヨンドトゥモロー」は、東日本大震災で被災した若者がグローバルに活躍するリーダーへの成長を支援することを目的とした事業として、包括的なリーダーシップ支援事業を実施しています。2012年度には、「TOMODACHIサマー2012　ビヨンドトゥモロー米国プログラム」「東北未来リーダーズサミット2012」「TOMODACHIビヨンドトゥモロー・グローバル・リーダーシップ・アカデミー」「ビヨンドトゥモロー・スプリングプログラム2013」などを開催、2013年度には「ビヨンドトゥモロー欧州サマープログラム」「TOMODACHIビヨンドトゥモロー米国サマープログラム」「東北未来リーダーズサミット2013」を開催。被災地からリーダー候補を輩出するための取り組みを行っています。
また、大学進学者を対象として奨学金及びリーダーシップ教育を提供する「ビヨンドトゥモロー・大学スカラーシップ・プログラム」や「ビヨンドトゥモロー・東北未来フェローズ・プログラム2013/2014」、高校生を対象として海外のボーディングスクールへの留学機会を提供する「高校留学プログラム」を運営しています。

特徴

志ある学生の夢の実現を応援し、金銭的な支援だけでなく対話を通して大志の実現を助け、グローバルな視野を持つ人材を育成します。また、今回の逆境を乗り越えて、自らがより主体的に社会に関わることができるような機会を提供することにより、他者に対する共感力をもつ人材の育成を目指します。

内容

1. 奨学金プログラム
東日本大震災という困難を経験した若者こそ、今後、世界や日本、そして東北復興のために行動するリーダーになる資質を有していると信じ、進学のための奨学金（返済不要）を給付しています。
   - 大学スカラーシップ・プログラム
   - 東北未来フェローズ・プログラム2013/2014
   - 高校留学プログラム

2. リーダーシップ・プログラム
東北被災地からリーダーとしての活躍を志す学生たちの視野を広げ、人間的成長を促すリーダーシップ育成プログラムを開催しています。その領域は、世界・日本・地域へと広がり、広い視野と強い共感力をもって社会革新の原動力となる人材の輩出を目的としています。

撮影協力：神戸芸術工科大学 infoGuild

一般財団法人　教育支援グローバル基金
http://www.beyond-tomorrow.org

〒150-0041
東京都渋谷区神南1-5-7
APPLE OHMIビル　ETIC. 内
info@beyond-tomorrow.org

©一般財団法人　教育支援グローバル基金